

J O F I 東京通信

第3号 平成27年3月15日発行
<http://www.jofi-tokyo.org/>

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌

目次

東京オリンピックを控えて 遠藤 実会長……	1
下手な釣り師が河川や海岸を汚す現状 阿部 敏明……	1
フライ・フィッシングの楽しみ方 新井 勝之……	2
テンカラ教室を5年間続けて思うこと 吉田 孝……	3
文化の違い 鈴木 伸一……	4
続 釣り場の魚たち 四条 徳明……	5
お宝コーナー……	7
2014年度活動実績……	10

東京オリンピックを控えて

遠藤 実会長

1964年10月、日本中に勇気と感動を与えてくれた東京オリンピック。あれから半世紀、2020年に再び東京でオリンピックが開催されます。

長寿時代にあやかり、昨年傘寿を迎えることが出来ました。今は亡き新国劇の名優、島田正吾さんが傘寿を迎えられた時、「80は老いの序の口冬若葉」と詠まれた句が、新聞のコラム欄に紹介されていました。何とか頑張って二度目の東京オリンピックを見ることができればと思っていますが、やはり80歳を過ぎると、あちこち身体のトラブルを感じます。

20年前趣味が高じて、釣りインストラクターの資格を取り、14年前にはマスターの資格を取得、釣りに関するさまざまな行事に関わり、多くの方とめぐり合うことが出来ました。皆さま方のご支援を受けながら、身に余るJOFI東京の会長職までも務めさせていただきました。

然しながら前述のごとく、年相応に来る身体のトラブルは止むを得ないと思っています。今年はJOFI東京でも役員改選が有ります。この会報が発行される頃は、世代交代での新しい体制になっていることでしょう。浅学非才の私を長きにわたりご支援いただきました皆様方には、心より感謝と御礼を申し上げます。

JOFI東京のますますの発展と、会員皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたしております。

下手な釣り師が河川や海岸を汚す現状

阿部 敏明

各地でいろいろな場所で大勢の人達が清掃活動に汗を流して頑張っている。回収したゴミの分別をするとおおむね共通性が決まってくる。

釣り具以外も多いもので、これは未熟な釣り人、マナーに欠けた釣り人、ゴミを持ち帰らない釣り人によるものが元凶。

毎年回収した釣り具を整理してリサイクルを実行している。仕掛け作りは楽しいもので上物、底物、大量に作った。これらと用具をパネルに入れてイベントで展示したところ大好評。「イシダイ、グレ、ウミタナゴ、ハゼなどを釣りました。」と言ったら、「あなたは何者ですか？」と言われてしまった。これからはリサイクル釣り具で「釣り大会」を開催したいね。回収した竿にリールをセット、ウキにオモリに針にヨリモドシ、万全！ エサはイソメが良いかな・・・いやルアーでもいいかな。

ついでに、今年の清掃活動では変わった釣り教室がイベントとして開催された。



モロコ竿、道糸は50号リールに巻いてハリスはワイヤー30番、100m先に古タイヤをセットされたのを巻き上げて足元まで寄せる難技挑戦した若者・女性のスタイルがダイナミック

港区芝祭りでは子供たちに古タイヤの代わりに2ℓの水を入れて魚の布袋に納め巻き上げました。大人気となり2本のセットには長蛇の列となった。

大事なことは子供たちに釣りに興味を持ってもらい、マナーを習得、夢を持って釣技に挑戦してもらおう、我々は将来の釣り師を誘導することが役目ではないだろうか。

フライ・フィッシングの楽しみ方

新井 勝之

フライ・フィッシングはエサとなるフライを自分で作る事で、釣れる、釣れない の分かれ道を選択してしまう事になるので、釣行前は情報を聞いたりして、数種類のフライ20～30本位を用意して挑むのですが、ヒットフライが3割程度含まれば上出来で、全滅の時も在り、難しさを思い知らされます。それでも、あれもこれも要るのではと 不安に駆られ つい余分なものまで 作ってしまいます。しかし、面白いことに その時は使わなかったフライも別の機会に思わぬヒットフライに化けることも暫しあり、その辺は ヘボな証明ですね(〜〜メ)。

フライも大きく分けると ドライ（水面に浮かすタイプ）とウェット（水面下に沈めるタイプ）が有ります。私は何方も使う釣りをしますが、断然ドライの釣りの方が面白いですね。水面を流れるフライに魚が飛びつき掛かった瞬間は思わず「ヤッタ」と叫びたくなります。

魚や状況によってくわえ方は様々で、普通は下から口を開けて食らい付き、反転するパターンが多いですが、ダイナミックな奴は水面から飛び出し、戻るときに 上からフライをくわえるのは ドッキリするし、掛かりも良いですね。

意外に大型魚は警戒心が強いのか 派手なで出かたをした大物はいないですね（私が経験した中で）。下から吸い込むのでフライがスーと消える感じです。それと口先だけでくわえて「ピシャ」と小物がくわえたかのような音しかしない等々、様々です。

「フライを食った」と判断した時に 合わせるのですが、外される事も 結構あります、その原因は魚が偽物と気づき、吐き出してしまいうまに合わせられるかにもよるし、すっば抜けることもあるので 技術と運も作用します。



私が一番面白いと感じるのはミッジ（ユスリカ等の極小サイズの虫）フライによる釣りです。この釣りは

難しい反面、掛かった時の喜びは一人です。小さいフライと細いライン（01～02号）を切れない様に取り込むのも スリルが有って 楽しめます。画像は一番小さいサイズで 巻き幅は3ミリ程度なので構造はシンプルですが、神経を使います。

このサイズで 溪流の主にヤマメを釣るのですが視認性も悪い為、合わせが難しいですがかかった時の喜びは格別です。釣りをするうえで 楽しみ方は 人それぞれなので 自分に合うものを 試行錯誤するのも楽しいものです。

テンカラ教室を5年間続けて思うこと

吉田 孝

それまで私自身で試行錯誤をしながら続けてきたテンカラという釣りを、「よりわかりやすく、誰にでも簡単に伝えることはできないか」との思いが頭に浮かんでいた。テンカラはそのイメージから、「難しそう」とか「なんだかよくわからない」と思われているような気がしていたからである。



2009年の秋。当時足しげく通っていた奥多摩にある管理釣り場のTOKYOトラウトカントリー。そんな場所が近くにあることもあり、その場所でテンカラを教えるための教室を開催できないだろうかという思いから、いずれその話をこちらから切り出してみようと、草案として書面に残しておいたことがあった。

書面に残したその翌日のこと。週末だったこともあり、いつものようにトラウトカントリーに出かけ、クラブハウスでこの総支配人をしてた堀江溪愚氏と談笑をしていたのだが、その時急にあらたまった表情になった堀江氏から、

「吉田さん、ちょっと話があるのだけれど」といわれたのである。その話というのは、「今度ここでテンカラを教えるための教室を開催しようと思うのだけれど、その講師を引き受けてくれないだろうか」ということであった。

いただいた話の内容は、この釣りをもっと平易に、誰にでもわかりやすく教えていくことはできないだろうか、自分は年齢と体力的なこともあるし、吉田さんにここで継続的にテンカラ教室の講師をやってもらいたいのだが、というものであった。

たまたま時を同じくして、全く同じことを考えていた私は驚いて、実は自分も昨夜同じことを考えていて、どのような形で教室を開催できるかを考え、書面にしたところだったので。「今自分の車にあるので持ってきます」といって、その草案を堀江氏に見ていただくことになったのである。

偶然の一致といおうか、お互い同じようなタイミングで同じことを考えていたのか、断る理由はどこにもないため、私はその話をこころよく引き受けることになったのである。

常設の管理釣り場で月に1度のテンカラ教室。開始した当初はなかなか上手くはいかなかったが、回数を重ねる度に少しずつではあるが慣れてきて、ご参加いただいた方々からお礼の言葉も頂戴するようになってきた。そして1年後には毛バリに特化した教室でもある「毛バリ研究会」を開催することもできた。両方の教室を合わせると、今日までに100回以上開催したことになる。また、これらの教室にご参加いただいた方々の中から、たくさんのテンカラファンも生まれることになった。このことがきっかけとなり、釣り雑誌の連載を受け持つことができ、同じ出版社からテンカラ入門のDVDも作って販売していただくことができた。

ただ、このテンカラ教室を開催した当初から、私の頭の中には、「釣りの技術や知識以外に伝えていけないとならない大きなことがあるのではないか」との考えがあったのである。

高度成長期を迎えた日本。その頃からこの国は国土に色々な形で手を加えてきた。公共事業や開発という名の下に、中には有用なこともあるとは思いますが、手つかずの自然を壊してしまうようなことも多くおこなってきたという事実は否めない。私個人としても、日本の各地を釣り歩き、そういった場所を目にすることも何度かあった。このことは仕方がない部分もあるのだが、こういった場所を見る度に、やはり私の中では「少しでもこの自然を後世に残して

いきたい」「美しい渓を、そしてそこに泳ぐ美しい魚たちを消してしまうようなことにはならないで欲しい」という気持ちが強くなってきていたのである。

一方では我々釣り人も、釣りに出かけるには車や電車を使い、土足で自然の中に踏み込んでいくわけで、これとて考えようによっては自然を破壊する一端を担ってしまっていることになる。この辺りのことは今でも自分自身のジレンマとなっているところでもある。しかし、そこにある自然のことを何も知らず、何も感じることなく生きていたら、自然を破壊することに何の感傷も、何のためらいもなく手を下してしまうのではないのかと思うのである。

自然と触れ合い、その中で遊ぶ楽しさを多くの人たちに知ってもらおう。そうしてひとりでも多くの人が、渓を、魚を、そして自然を守ろうという気持ちになってくれたらよいと思うのだ。その方法のひとつとして「テンカラを通じて自然の素晴らしさを感じてもらおうことができるのではないか」と考え、私の教室ではそういった話も含めながら講習を続けている。

全釣り協のインストラクター制度を知り、公認インストラクターとなったのも、自分自身の釣りのスキルを上げるということだけでなく、各方面の釣りのエキスパートの方々から多くの知識や情報を得て、それを私なりに発信していきたいと思ったからである。昨今では釣り道具のめざましい進歩もあり、釣果優先の釣りに目がいきがちではあるが、乱獲を慎み、自然環境にも目を向け、ただ釣れさえすればよいという、マナーを無視した釣りをしないよう、大人としての「釣りの品格」にも目を向け、こういったことも伝えていきたいところでもある。

このような事柄を考えることから、私自身も襟元を正し、自然に対してローインパクトな釣りを心がけ、遊びもするが守りもするというスタンスで、それらのことをひとりでも多くの釣り人に理解していただけるよう、今後も活動を続けていきたいと思っている。

文化の違い

鈴木 伸一

昨年12月、丹沢は札掛において実施された、僕の所属する Japan Fly Casting Club と World Fly Fishing of Japan との合同納会でのことである。釣り終えて竿を納めようとした際、日本人ではあるものの米国籍をお持ちの、しかも釣りは日本ではなく米国で覚えたという方の方のテンカラ竿

の穂先と穂持ちの接合部が固着してしまい納まりがつかなくなってしまった。

丹沢ホームに戻って昼食の際にも、竿抜きシートを使って捻ってみてもびくともせず、穂持ちの後部を板に打ち付けてみてもびくともせず……

持ち主は新幹線で遠方へ帰宅とのことで、取り敢えず僕が持ち帰り、竿の内部を乾燥させ、穂先と穂持ちの接合部に入り込んだ水分が抜けた頃合いを見て仕舞い込みの再チャレンジを試みることに相成った。



帰宅当日は尻栓を開け、先ずは各一継毎に取り出そうとしたのであるが、現地でも表面はティッシュペーパーで拭いておいたにもかかわらず、抜き出しに少々難儀するほどに各継の内部には多量の水分を含んでいた。



それに、それまでも使用後の手入れを怠っていたようで、ブランクの表面をコーティングしてあるバーニッシュは粉を吹いたような状態で、そんなことも固着の一要因になっているようである。



3日ばかり自然乾燥させた後、ブランク内部が乾燥したのを確認し、試しに固着部分を捻ってみるもびくともせず、固着部にCRCを浸透させ捻ってみるもびくともせず・・・

ものは試しと、穂持ちの管口をドライヤーで熱し、頃合いを見計らって恐る恐る捻ってみると微かではあったが固着が緩んだ。こうなればしめたもので、後は時間の問題である。



この竿、実は日本で販売されているものではなく、おそらくコストダウンさせるべくテンカラもろくに知らない東南アジアにでも製造委託したものでないだろうか？ それも、プロタイプだそうだ。

プロトタイプと言えど、とてもテーパー・ラインでさえ気持ちよく振れるような代物ではない。まして、今流行のレベル・ラインの使用なぞ推して知るべし・・・

海外でテンカラがもてはやされることは大歓迎であるが、テンカラ釣りそのものの知識や竿の調子もさることながら、振り出し竿の使用方法・アフターケアなど文化の異なる海外への情報発信にはいろいろと気遣いが必要のようである。

実は World Fly Fishing Championship を介して開催地でのテンカラの講習依頼は既を受けており、昨年より実施も開始したが、東京オリンピックを控え、今後は海外の釣り人から日本でのテンカラの講習・ガイド依頼も現実味を帯びようになってきた。グローバルな活動を展開していくためには、文化の違いを念頭に入れた指導が如何に大切なことであるかをつくづく感じさせられる体験であった。

続 釣り場の魚たち

四条 徳明

1. かしこい嫁はヒラメ釣り

2014年は秋以降、台風だ、大雨だ、噴火だ、と相次ぐ異常気象で例年の釣り計画が狂っていたところ、釣友の面白い釣りがあるとの誘いによって外川へ出かけてみた。ハナダイーヒラメのリレー釣りである。

釣り場へ着いたとき明るくなるよう真っ暗な港を出、まずハナダイからと生きエビが配られる。いつもなら入れた途端に竿先を叩いて喰はずが、この日は全く音沙汰なし。小さな潮廻りを繰り返し時折船中掌大が2・3枚上がるだけ。これでは正月用の赤い魚を数揃えようとやってくる釣り客も呼べないだろうとリレー釣りに納得した。

9時半に岸よりに戻ってヒラメ。初めてのヒラメ釣りなので釣友の云う通り生きイワシを泳がせて待つとそれらしき当たりがあつて、かなり待ったつもりでもスッポ抜け。それでも11時半沖上がりまでに2.5と1.0kgの2枚あげて、ヒラメ専門船が船中1～5枚なので、やっとツ抜けしたハナダイと合わせ満足のいく釣果になった。

これで悟ったのは、ヒラメ釣りは姑に遣えるかしこい嫁になれば、初心者でも難しくないということである。

朝、暗いうち皆を起こさないように台所に入り、何とか食卓の支度ができたところへ、起きてきた姑になにかとうるさく文句を付けられ、金を掛けた入れ歯なのに喰いきれずクチャクチャやっているのをにっこりしながら早く呑み込めばいいのにと見ている嫁。見られたら叱られそうな握り方で生きイワシを付けて泳がし、いつまでもしゃぶっていて喰いつかないヒラメ相手にわくわく、じりじりしている自分が重なってくる。

姑もヒラメも立派なカタので、鮮度を落とさぬように丁寧に扱いました。

2. 投げ釣りなら竹下通りを見つけて

シロギスは投げ釣りでも船釣りでも、ベテランから初心者まで幅広い釣り対象魚として人気がある。湘南、九十九里のような長い砂浜海岸だけでなく、小さな湾でも砂浜から投げれば釣れる魚で意外と強い引き味があり、パールピンクの美しい肌、持って帰れば生でも天ぷらでも美味しい魚と喜ばれる。

砂浜に駆け上がった波が引くとき、波が砕ける砕波帯手前で岸に沿った西向き流を作り、まとまって離岸流になって沖へ向かう。砕波帯の岸側は意外と深く、流れも速いのでシロギスは集まらない。波の大きさによって位置や深さは変わるが、多くはその砕波帯の沖側数十mが小さいシロギスの集まることになる。大きくなると群れが薄くなり分布域も沖へ広がる。

原宿といえば小ギャル憧れの竹下通りや、タケノコ族が踊りまくった公園通りがあり、いずれも景気や消費税に無関係なピチピチした女性たちのメッカである。

竹下通りに入ると、普通の背丈の男なら首一つ上になるので、小ギャルの行動がよく見える。一応目的があつての買い物選びではなく、そこに来たこと、居ることが目的である。3~4人の小さい群で店先にぶら下がる商品にチョット触っておしゃべりする。

砂浜からキスの投げ釣りをするときには遠ければいいというものではなく、砕波帯沖側を幅広く探って、竹下通りを探し出すのが第一である。巻き上げた時の餌の喰われ方から、原宿でも表参道、明治通りでは釣りにならない。公園通りだと一つや二つ掛かってくるが、竹下通りだとぞろぞろ砂浜を引きずりながら上がってくる。やがて秋も深くなると落ちギスと名を変え、船釣りになってくる。

なお、戦前姉ヶ崎の干潟に脚立を立てて釣っていたアオギスの復活を目指し、人工孵化の事業化も計画されているようだ。

3. シーバスを騙す

つい先日御徒町アメヨコの先の路上で、近頃殆んど見かけなくなった香具師の口上売りを見た。売っている物は、かなり時代ものらしい象牙の置物、鮮やかな色彩の壺や根付け、砂時計など、どこか大家の飾り棚に置くような骨董品の小物である。立ち止まっている人は3・4人しかいないのに、次々と品物の由緒や素材、品質、効能などを喋りまくっている。面白いのでやや離れたところからみていると、しゃがんでいたおじさんが根付けを千円で買っていったが、サクラではなさそうだった。

翌日、久しぶりの風なので手軽でそこそこ遊べるシーバス半日釣りに行った。隣の若い二人がそれぞれ持っているジグ・ケースには、大小色とりどりのジグが詰まっている。そして5・6回使っては手早く次のジグに交換、今喰ったジグでも交換する。二人であだこうだ喋り通しで掛かったフッコは玉網を使った大物以外は船べりでリリースする。



自分の3時間半の釣果はこの一つで14尾掛けたが、彼らその倍くらいで差が出た。見た目は大した変りがないジグだが、香具師が集まった客の顔を見て品物をとっかえひっかえ説明しながら売りぬいていくのは、彼らがフッコの気持ちを分かろうと、ジグを交換しているのと同じなのかもしれない。

お宝コーナー

フライ・フィッシングは英国で発祥し、その後、欧州の各国、米国、英連邦に属する国々などへ広められ、それぞれの地域の特殊性を反映させたかたちで発展していきました。ところが、フライ・リールと言えば何故か英国製、米国製がその殆どを占めているようです。機会あるごとに英国製や米国製以外のものを探し求めてきたのですが、未だに目にすることができたのは十指に満たないのが現状です。

それらのフライ・リールをつらつらと眺めまわしていると、おもしろいことにそのお国柄、国民性と言ったものも見えてくるものです。

1. 英国製



デザイン、構造、機能、どれをとっても洗練されており、その上、材質、クリック音に至ってまでも心憎いまでの遊び心が見え隠れしているように思えます。

2. ドイツ製



人に例えれば、正に質実剛健と言ったところでしょうか。

3. フランス製



シンプルなデザイン、構造でありながらも機能美に溢れ、大人の洒落っ気も……

4. スイス製



機能美、精度もさることながら、一味違うデザインもなかなかのものです。

5. スウェーデン製



正に高精度な精密機械と言ったところでしょうか？ 単純な構造にもかかわらず、懐中時計が刻むような心地よいクリック音が！

6. チェコ・スロバキア製



チェコ・スロバキア時代のフライ・リール。当時のお国の事情が反映されているのでしょうか？

スプールはアルミ製であるものの、フレームやフットなどハンドルを除くすべてが鉄製。それにデザインにも独自性はなく、軸受も単にボルトで留めてあるだけの極めて簡素・粗末に仕上げられています。

7. 米国製



1888年に既にオートマティック・リールに関する特許を取得しているものがあるかと思えば、デザイン的にもユニークなものも多く、そうかと言って、岩場で落としても、誤って踏みつけてしまっても決して壊れるようなことのない丈夫一点張りのもの、まるでおもちゃのようなブリキ細工みたいなもの、精密機械のようなものまでもあったりと、発想が何とも自由なようで……



所謂1874リールと言われているもので、後のOrvis CF0シリーズのデザインにも多大な影響を与えた伝説のフライ・リール。

8. カナダ製



英国の物作り精神を踏襲したような、それでいて米国的な側面も併せ持ったような……

2014年度活動実績

日付	活動実績
03/02 (日)	平成26年度定期総会開催
03/21~23 (金・土・日)	2014 国際フィッシングショウへの参加 ニジマス釣り等のサポート
03/22 (土)	釣りインストラクター・マスター研修会への参加
05/18 (日)	親子マス釣り懇親会 マス釣り & BBQ
06/08 (日)	隅田川へ子供たちが稚魚放流への参加 稚魚放流サポート
06/08 (日)	第28回鋸南町白ギス釣り大会 ゴミ袋の寄贈
07/19 (土)	日釣振東京都支部主催 第9回若洲海浜公園親子釣り教室への参加 釣り指導サポート
08/08 (土)	第2回アウトドアフィッシングスクール in 若洲への参加 釣り指導・魚の捌き方サポート
08/17 (日)	全磯連関東支部主催女性・少年少女釣り大会への参加 釣り指導サポート
09/07 (日)	JOFI 東京懇親釣り会
10/04 (土)	ふるさと清掃運動会実行委員会主催 ふるさと清掃運動会 in 荒川に協力参加、及び模擬ルアー・キャスティング教室実施
10/04 (土)	日釣振東京都支部主催 若洲海浜公園第9回シニア釣り教室への参加 釣り指導サポート
10/19 (日)	「水辺感謝の日」清掃デーへの参加

11/02 (日)	みんなで遊ぼうフィッシング祭りへの参加 釣り指導サポート
11/29~11/30 (土・日)	25年度全釣り協公認釣りインストラクター資格講習・試験 スタッフ・講師を派遣

編集後記

今回は特集を組んだ訳ではありませんでしたが、偶然にも内水面に関するもの、疑似餌釣りに関するものに話題が集中し、ある種時代の趨勢を反映しているようにも思えます。「ふるさと清掃運動会 in 荒川」においても子供たちはルアー・キャスティングに大変興味があるように感じました。自然保全、環境問題への対応も含め、今後は時代の流れに即した活動にも目を向けていく必要があるのではないのでしょうか？

本会報誌は皆様からの寄稿の様子を見て適宜特集を組んで発行していきたいと思っております。原稿は随時募集しておりますので、会員名簿を参照し広報部宛にEメール、又は郵送でお寄せください。勿論、集まり具合によっては期限を切って募集することもありますので、その際はどうぞよろしくお願いたします。(N. S.)

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌
第3号

発行日 平成27年3月15日
発行 JOFI 東京
(一社) 全日本釣り団体協議会 公認
東京都釣りインストラクター連絡機構

編集 同上 (広報部)

URL <http://www.jofi-tokyo.org/>